

# メリーランド大学と姉妹校提携



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼人 中原 泉  
編集人 日 末 日  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市浜浦町1-8  
☎ 025(267)1500



メリーランド大学の校章

## 16校目の姉妹校

本学はこのほど、アメリカのメリーランド大学ボルチモア校歯学部と大学間協定を提携した。同歯学部は、一八四〇年創立の世界最初の歯科医学校であり、本学十六校目の国際姉妹校・協定校となる。

本学とメリーランド大学との交流は、九十年前の大正五年(一九一六)に、創立者中原市五郎先生が、同大学から名誉博士号を授与されたことに始まる。前年の大正四年、中原市五郎先生は、アメリカの歯科医学教育や歯科事務を視察した。メリーランド大学では、先生に対する敬意を込めて、先生に對して、日本の歯科医学教育の先達としての榮譽を称え、名誉学術博士の学位



中原泉学長と固い握手を交わす歯学部長(全国校友大会会場にて)

## 世界最初の歯科医学校

メリーランド大学歯学部の前身は、世界最初の歯科医学機関であるボルチモア歯科医学校。同校はメリーランド州の認可を受け、一八四〇年にハインデンとハリスが設立した。歯科医学を近代的な



記を授与した。同歯学部のC・S・ストローラー歯学部長は、彼のミシガン大学時代から、中原泉学長、小林義典教授、小倉英夫教授等とは二十数年来の旧知の仲であった。ストローラー歯学部長もたびたび本学を訪れ、昨年の十月八日に開催された全国校友大会に、来賓として百周年を祝う祝辞を述べた。

この全国校友大会を機に、姉妹校提携がにわかには具体化し、両大学は十一月一日付けで大学間の協定書を調印し交換した。今回の協定により、本学の国際姉妹校・協定校(IUSOH加盟校を含む)は、北米四校、欧州四校、中東一校、アジア五校、オセアニア二校の計十六校となった。

- (1) 中山医学大学(台湾の台中市・一九七一年)
- (2) ミシガン大学(アメリカ)
- (3) パリ大学VII(フランス一九八四年)
- (4) 四川大學華西口腔醫院(中国の成都・一九八五年)
- (5) ベルン大学(スイスのベルン・一九八六年)
- (6) ヘブライ大学(イスラエル一九八四年)
- (7) フリテイシユ・コロニア大学(カナダのパンクーバー・一九八七年)
- (8) マンチエスター大学(イギリスのマンチエスター・一九八八年)
- (9) マヒドン大学(タイのバンコク・一九八八年)
- (10) トウルク大学(フィンランドのトウルク・一九九一年)
- (11) フィリピン大学(フィリピンのマニラ・一九九二年)
- (12) ペンシルベニア大学(アメリカのフィラデルフィア・一九九三年)
- (13) アドレド大学(オーストラリアのアドレド・一九九七年)
- (14) オタゴ大学(ニュージーランドのダニデン・一九九七年)
- (15) モンゴル健康科学大学(モンゴルのウランバートル・二〇〇五年)
- (16) メリーランド大学(アメリカのボルチモア・二〇〇六年)

## 古屋教授(麻酔)最終記念講義

本学生命歯学部歯科麻酔学講座の古屋英毅教授(東京短期大学学長)の最終記念講義は、平成十八年十一月二十九日午後五時より、生命歯学部百周年記念館九段ホールにて行われた。



古屋教授は昭和三十六年本学卒業第五十回卒、同年七月口腔外科学助手、講師、助教授を経て、五十二年十月歯学部歯科麻酔学教授に就任。歯学部教務部長、歯学部長、本学歯学会会長等を歴任された。十七年四月には、新設の東京短期大学の初代学



除幕された寮の記念碑に拍手する参列者

## 寮碑、東小金井グラウンドに建立

本学の男子寮「富士見寮」は、老朽化のため昭和五十四年に解体されたが、昨年、寮生OB有志が中心となり寮碑を製作した。「青春」の文字と、寮歌を刻んだ寮碑は、東小金井のグラウンドの一角に建立された。平成十八年十月七日午前十時より、除幕式が行われた。式には中原泉学長、光安一夫校友会会長はじめ、地元町会長も列席した。久方ぶりに再会した寮生OBたちの間では、寮生活の思い出に話が弾んだ。

## 村上先生 日本財団賞



生活改善に取り組んでいる功績に対し授与された。平成十八年度社会貢献者表彰式典が、十一月二十日、東京赤坂の東京全日空ホテルにおいて開催され、村上先生は多年にわたる功労部門において、日本財団賞の表彰状と副賞を贈呈された。同式典には、中原泉学長が列席した。

NP〇カラハ西アフリカ農村自立協会代表理事の村上一枝先生(五十四回卒)は、このたび日本財団賞を受賞した。同賞は、サハラ砂漠が三分の一(二〇〇五年)メリーランド大学(アメリカのボルチモア)に二以上を占める過酷な条件にある西アフリカの内陸国マリ共和国で、識字教育や裁縫、野菜栽培やマラリア予防等、十六年間にわたって村人たちの

# 第19回 姉妹校交換学生



命歯学部小児歯科学講座の小口春久

## 東京短大 学長に小口 額教授

本学東京短期大学の新学長に、生命歯学部小児歯科学講座の小口春久が、平成十八年十二月一日付で就任した。

小口学長は昭和十六年二月生、四十六年三月東京医科歯科大学歯学部卒業、五十年同大学大学院歯学研究科修了。北海道大学歯学部教授等を歴任後、平成十六年四月より本学客員教授。専攻は小児歯科学。歯学博士(東京医科歯科大学)。

本学の交換学生制度は国際交流の啓発を期するため、両学部の学生がカナダのプリティシユ・コロニア大学(UBC)と米国のワシントン大学(UW)を訪問し、研修と親睦を図る本学独自の教育システムである。昭和六十一年(一九八六)の本学創立八十周年

## 7名派遣・7名受け入れ

の年から始まったこの交流は、本年度十九回目を迎え、同行教員を含め派遣は百二十名、受け入れは一三九名となった。本学の一行七名は、平成十八年(二〇〇六)三月七日に成田を出発し、カナダのバンクーバーに到着。同日午後からはUBC歯学部で病院実習を

行った。九日と十日は、ちようど開催されていたPacific Dental Conferenceに出席。中程度の学会だったが、学生たちには海外での学会参加は初めてのこと。演者とフロアとの白熱した討論な

ど、新鮮な刺激のある経験となった。十二日はバスで国境を越え、アメリカ・ワシントン州の州都シアトルに向かう。翌十三日、朝からUWを訪れ、終日市内の施設を見学した。再びバスでバンクーバーに戻り、UBCで研修を行い、休日には市内やビクトリア観光、ウイス

ラーへのスキー旅行などUBCの学生の案内でカナダの春を満喫した。貴重な思い出を胸に、一行は十九日バンクーバーを発ち、二十日に成田に帰国した。UBCの一行七名は、七月二十七日から東京、八月三日には新潟を訪れた。両学部では学内の施設や病院の診療科を熱心

に見学し、休日には、本学の学生とともに、ほとんどの春を満喫した。貴重な思い出を胸に、一行は十九日バンクーバーを発ち、二十日に成田に帰国した。UBCの一行七名は、七月二十七日から東京、八月三日には新潟を訪れた。両学部では学内の施設や病院の診療科を熱心

《交換学生に同行して》大きな問題もなく、全員元気に海外での生活を送ることができ、無事に帰国できたことは非常に良かったと思う。ただ、もっと学術的な部分での交流が図れば、交換留学としてさらに有意義なものとなるだろう。滞在する時期の問題もあるため簡単ではないかもしれないが、検討すべき点としてあげておきたい。今回から、UBC側は同行教員をおかず、プログラムは全て学生のみで

企画された。私はほとんど学生とともに行動し、単独での行動は控えたため、Facultyと話をする機会が少なく、少し残念だった。ワシントン大学(UW)は一日という短い訪問であったが、さまざまな場所を見学することができ、有意義だった。最後になりましたが、



中原学長から修了証を手渡されたあと



大いに盛り上がったフェアウェルパーティー



院長室で住友病院長を囲んでパチリ



UBC病院の最新設備を用いて熱心に研修

今回海外でホームステイをしながら、国際交流を図るといふ貴重な機会を与えて下さった関係各位に深く感謝いたします。(同行教員・山瀬勝)

### 交換学生

二〇〇六年度姉妹校交換学生は、次のとおり。(日本歯科大学)

- 生命歯学部 阿彦 希
- 熊代 祐子
- 割田 毅信
- 新潟生命歯学部 河村 華恵
- 坂井 登
- 橋田 窓花
- プリティシユ・コロニア大学 橋田 窓花

- Mr. David Lim
- Ms. Linda Quach
- Mr. Curtis Wight
- Mr. Aidin Ghotbi
- Mr. David Li
- Ms. Jessica Kuo
- Ms. Patty Wu

- (同行教員)
- 山瀬勝講師(生命歯学部 附属病院総合診療科)

### 辞令

医学博士 古屋 英毅 名誉教授の称号を授与する

歯学博士 小口 春久 東京短期大学学長に任命する

学士(歯学) 菅原 敬道 助手として採用する(新潟病院総合診療科・94回卒)

平成十八年十二月一日 本学



ハスキー犬のマスコットを手にUW歯学部長と



筆と墨で日本の漢字文化を伝授する



ウィスラーで、スキーとスノーボードを堪能